

自己リーダーシップとは

越谷北高等学校長 下山 忍

本校では、10月8日に「未来を創造するリーダー育成推進プロジェクト」の一環として、フランクリン・コヴィー・ジャパン(株)取締役副社長(筑波大学客員教授)の竹村富士徳氏を講師に迎えて、2年生対象の「リーダー育成講演会」を実施しました。これは、去る6月18日に行った3年生対象の「リーダー育成講演会」と同様に、本校生徒が将来リーダーとして活躍するための素養の育成を図ることを目的としています。



竹村さんの講演は、6月18日の小林千絵さん同様、スティーブン・R・コヴィーの『7つの習慣』に基づくものです。この本は、我が国で約170万部、世界では約3000万部が読まれており、ビジネスや生活の中で個人が成功するためには「7つの習慣」が必要であると説いています。コヴィー博士が、アメリカ合衆国200年の歴史を紐解き、最近50年の

成功譚がテクニック・スキル等のいわば「個性主義」に基づいているのに対し、それ以前の150年は、誠実・忠実・勇気・思いやり等のいわば「人格主義」に基づいており、こちらに立脚することの大切さを指摘しています。

「7つの習慣」とは、①主体的に行動する、②目的を持って始める、③重要事項を優先する、④Win-Winを考える、⑤まず相手を理解してから次に自分が理解される、⑥相乗効果を発揮する、⑦「自分を研ぐ」の7つです。

竹村さんは「自己リーダーシップを発揮する」と題して、このうちの「第1の習慣・主体的に行動する」と「第2の習慣・目的をもって始める」に関して分かりやすくお話してくださいました。

第1の習慣である「主体的に行動する」ためには、①「自己制御パラダイム(ものの見方)」から解き放たれることや、②外部からの刺激と自分の反応の間に「一時停止スイッチ」を入れ「選択の自由」を留保することの必要性を述べ

られていました。また、第2の習慣である「目的をもって始める」ためには、「物的創造」に先立って「知的創造」がなくてはならないこと、すなわち「自分の未来に向かうコンパスを意識しよう」ということを強調されていました。

「自己リーダーシップ」とは、「7つの習慣」でいう「依存」から「自立」に向かう中での必要とされる習慣です。本日お話いただいた2つの習慣に続き、第3の習慣として「重要事項を優先する」というものがありますので、本校ではこれについても、フランクリン・コヴィー・ジャパン(株)とご相談しながら進めてまいりたいと考えております。

さて、本日の講演では、だまし絵による絵解きがあったり、お互い同士の5年前や10年後の自己紹介があったりして、あっという間に時間が過ぎていきました。また、本校『進路の手引き』に書かれた先輩たちの合格体験記の記述からも「第1の習慣」「第2の習慣」が読み取れるというお話は大変示唆に富んでいたと思います。真剣に聞いていた2年生の皆さんが、今後、自己リーダーシップを発揮していくことを願ってやみません。